

文字群の指導と運用能力の育成

●安田女子大学 谷口邦彦

高学年における書写学習のポイントは、文字群（文字の集まり）の指導である。用紙全体や書く目的との関係から書き方を判断するといった実践的な力の育成が求められる。文字群の指導では、「書くこと」の学習、例えば、「記録する文章、報告する文章、説明する文章、手紙、学級新聞」などと関連づけて学習することも可能になっていく。

『小学生の書写』では、「全体を読みやすく書こう」「用紙に応じて書こう」「速さを考えながら書こう」「目的にふさわしい筆記用具と書き方」それぞれで基礎技能を習得し、さらに「学習のまとめ」で実践的な力を具体的に活用できる場面を多く設定している。

目を使う

五年生の文字群の指導では、全体を読みやすく書くための、「けい線と文字の大きさ」「行の中心と行間」について、縦書き横書きそれぞれについて習熟するとともに、全体を見る「目」の視点を加えている。さらに、具体的に

手紙の封筒や便箋、原稿用紙、学級日記等の用紙を示し、書式に則って学習を進められるように構成されている。

速さを考える

六年生の文字群の指導は、従来の字配りの学習にとどまらず、運動面において特に「速さ」を考えながら「書くこと」の学習に重点を置いている。点画ごとの穂先の動きに加え、点画から点画へ、さらに文字から文字へと移動していく過程に重点をおくと、「穂先の動き」と「点画のつながり」は一体化した指導になつていく。高学年で、硬筆に比較的近い小筆での活動を多用しているのも『小学生の書写』の特色の一つになっている。「場面にふさわしい書く速さ」「筆順と点画のつながり」「つながりと書く速さ」「書く速さと読みやすさ」のように着実に進められるよう配慮している。

生活に生かす

「目的にふさわしい筆記用具と書き方」で



くにひこ 安田女子大学文学部准教授。書写の学習は系統的に基本を積み上げていくことによって、誰でも身につけることができると思います。

は、場面や目的をもとに、用紙（便箋・白紙・模造紙など）と筆記具（鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなど）の組み合わせを選択する実践的な学習になる。筆記具は、形、書く部分の材質や形状、色などに違いがある。ここでも身近な学校生活を想定した課題設定となっており、書写の時間に身につけた力はすぐに生かされていくはずだ。

6年ポスターを書こう

落ち葉清そうのお知らせ

日にち 11月18日
時間 午前9時～午後3時
場所 西野森公園、小雨決行

公園の落ち葉を集めてお家の肥にします。
注意 よこれてもよい服装で参加してください。

三宮小学校加グループ

緑を大切に